



IT資産管理のアウトソーシングとは

Point!

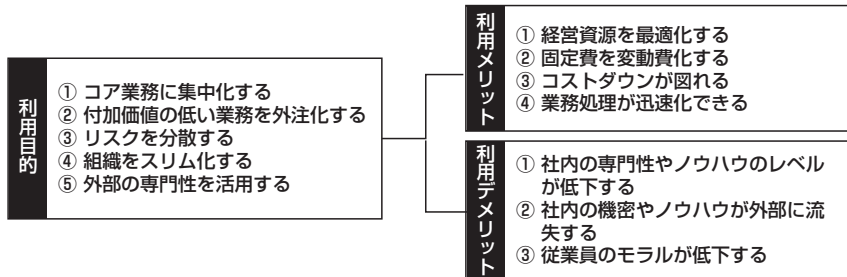
- ☆アウトソーシングとは、自社の行っている業務を外部の専門業者に委託することで、外部業務委託のことです。
- ☆アウトソーシングする目的と範囲を明確にすることが大切です。



★アウトソーシングとは

アウトソーシングとは、自社の行っている業務を外部の専門業者に委託することで、業務の外注化、外部業務委託のことです。一般的にいわれるアウトソーシングの利用目的と利用メリット・デメリットは、図表107のとおりです。

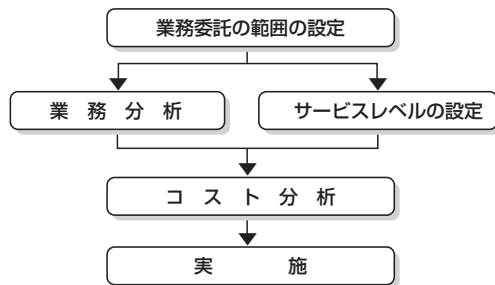
【図表107 アウトソーシングの利用目的と利用メリット・デメリット】



★IT資産管理のアウトソーシングは

委託のプロセスは、おおよそ【図表108 委託のプロセス】

図表108のような流れです。外部委託のポイントは、どの業務をどのレベルでいくらか委託できるかを判断することです。IT資産管理のアウトソーシングは、主にハードウェア資産やソフトウェア資産の管理を行うものが多いようです。



他には、プライバシーマークやISMSなど資格取得のコンサルティングや、教育や、IT資産の保守サポート・廃棄などを外部に委託するケースなどがあります。

★IT資産管理の主な委託形態は

IT資産管理の各アウトソーシングベンダーは、専用の「管理ソフトウェア」などによって代行するのがほとんどです。管理ソフトウェアで収集した情報から管理台帳を作成するだけでなく、IT資産のリモート監視・管理するベンダーもあります。

IT資産管理のアウトソーシングベンダーは数多くありますが、サービス提供形態からみると、次の3つの特徴に分類されます。

- (1) ハードウェアメーカーまたは関連ベンダーによるハードウェアの保守をメインにしたもの
- (2) ソフトウェアメーカーによる管理ツールサービスをメインにしたもの
- (3) リース会社やレンタル会社による資産管理サービスをメインにしたもの

★ハードウェア関連ベンダーが提供するアウトソーシングの特徴は

IT資産管理では、どうしてもハードウェアやソフトウェアがいくつあるかといった管理に目がいきがちですが、IT資産の状況に連動した保守管理も重要な業務です。ハードウェアの故障や最新のソフトウェアのパッチ対応は、迅速かつ、正確に行われなければ、ビジネスに損害を与えることは間違いありません。

ハードウェア関連ベンダーの提供するアウトソーシングサービスは、コンピュータを中心としたインテグレーション（統合）、ヘルプデスク、保守運用などフィールドサービスがすべてカバーされていることが特徴です。

保守サポートを含んだIT資産管理のアウトソーシングは、信頼性の向上につながります。

アウトソーシングのメリットとしては、IT資産を保守を含めてすべて委託してしまうので、どのような管理ツールを使うか、どのようなセキュリティ対策をしなければならないかに頭を悩ます必要がないことです。

逆にデメリットとして、すべてを任せてしまうので、競争力が働かなくなり、問題があっても、他のベンダーに簡単に移すことができなくなるという点があげられます。

トータルにIT資産を入れ替えるなど、ある程度スケールメリットを前提にコストダウンをしたい企業には、アウトソーシングは有効な手段です。